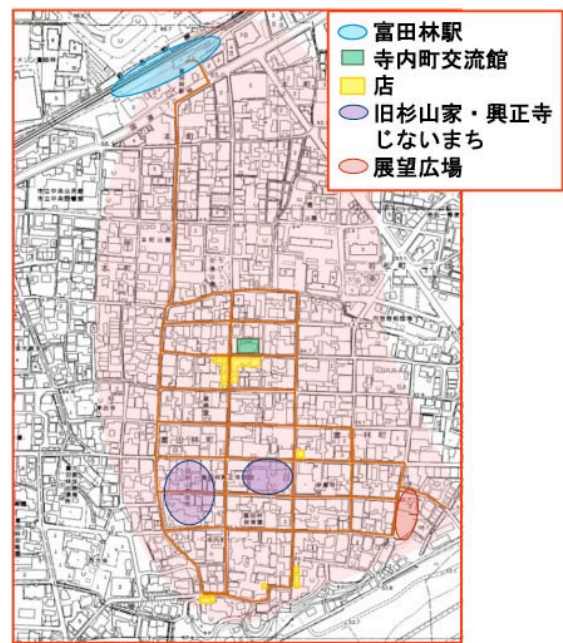


平成 25 年度「南大阪の歩き方」報告書

- ・テーマ「富田林市寺内町と周辺地域の活性化を目指したエコツーリズム計画」
- ・参加学生：池崎薫汰、井村恭輔、上田知樹、高尾肇、土出佳苗、森山将士、安井一喜、藪内祐基、渡辺貴大、真鍋徳啓（大阪芸術大学環境デザイン学科 3 年生）
- ・指導教員：下休場千秋（大阪芸術大学環境デザイン学科教授）

1, 計画コンセプト

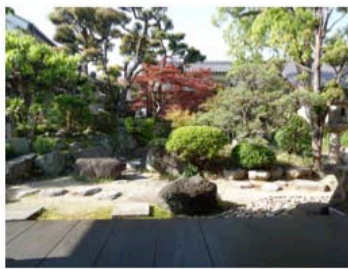
富田林市の魅力を発見し、それらを観光資源として価値あるものにしてゆくことを目的として、大阪府内で唯一の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）である「富田林寺内町」を観光拠点として位置づけ、富田林市を南北に縦断する「東高野街道」と「石川」を 2 本の軸線と考えることにより、富田林市における観光拠点と観光資源を新たに結びつけたツアールート进行を提案し、ルート上の観光資源の価値を高めるエコツーリズム計画を提案する。



2, 現況分析

- ①「富田林寺内町」には、現在でも多くの昔から残る古い家が残っていて、ここでしか味わえない雰囲気がある。
- ②大阪府で唯一、国の重要伝統的建造物群保存地区として登録されている。
- ③寺内町の中心部を南北に縦断する城之門筋(じょうのもんすじ)が建設省の日本の道 100 選に選定されている。

- ④富田林駅と富田林西口駅から寺内町まで近い。
- ⑤金剛山などの風景が美しく、石川沿いにはサイクリングロードがある。
- ⑥多くの庭園や公園が残っているため、自然と街並みの調和も見られる。
- ⑦道路の整備が進んでおり、電柱の地中化も進められている。
- ⑧空き家などを利用して飲食店や売店などの店を開いている。
- ⑨東高野街道といった歴史遺産、石川という自然遺産が存在する。



3，問題点・課題

- ①重要伝統的建造物群保存地区に選定されているにもかかわらず、駅を降りてから寺内町へ入る入り口がわかりにくい。
- ②近くに駐車場などが少なく車で来る人たちのアクセスが悪い。
- ③寺内町は富田林駅と富田林西口駅から近いが道がわかりにくい。
- ④サイクリングロードもあるのに石川との関係性が希薄である。
- ⑤すべての電柱が地中化されているわけではなく、家の屋根についているアンテナなども景色を阻害している。
- ⑥空き地や空き家が点在しているが活用できていない。
- ⑦飲食店や売店などの営業日・営業時間が短い。
- ⑧寺内町でしか味わえない雰囲気がある反面、そこで何をすべきか明確でない。
- ⑨寺内町と東高野街道の沿道や石川河岸に存在する観光資源との連係が弱い。

4，提案

- ①駅を降りてから寺内町へのアクセス(入り口・寺内町内)がわかりにくいので、案内板

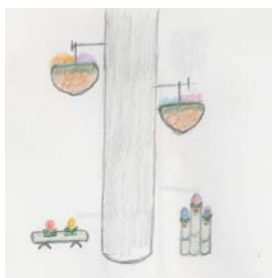
を設置し、案内マップを駅前と寺内町内の観光案内所や各店舗で無料配布し、レンタサイクルや観光用バスを導入する。



a, 歩道上に案内板を設置する事でイベントの告知や寺内町を知ってもらう事ができる。



b, 車の邪魔にならないようにし、各家々の人に協力して頂いて道路沿いに空いたスペースを使って植栽する。

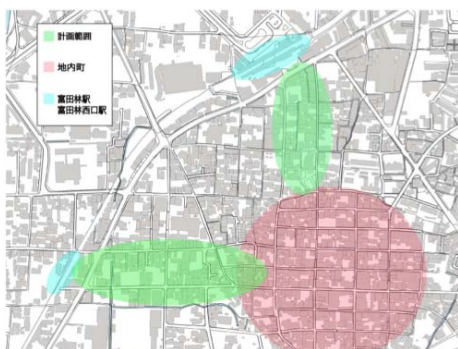


c, 富田林駅から交流館までの道を植栽する。亀ヶ坂を下った所の竹を使った植栽や小鉢を電柱にぶら下げて華やかにする。



d, 絵馬型の店舗紹介カードの提案。店舗一つ一つの紹介文や写真、地図などを詳しく掲載する。そのカードを持ちながら

店舗まで行くことができる。ポストカードサイズなので、持ち運びにも便利。絵馬の形にすることで、寺内町の景観にも合わせるようにする。



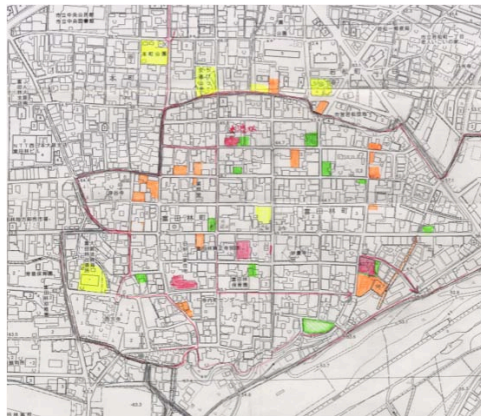
e, 富田林駅と富田林西口駅から寺内町までの道



をアスファルトから石畳にして、植栽し誘導する

②寺内町空き地緑化計画

a, 寺内町の中には点在する空地や駐車場が点在しているので、それらを緑化する。



- ◆ 駐車場
- ◆ 空地
- ◆ 公園
- 既存庭園
- ◆ 施設
- 寺院

寺内町の現況オープンスペース分布図

b, 提案1 寺内町交流館横の空地利用



寺内町交流館の横の空地にお茶室付き庭園を作り交流館で着物の着付け、お茶室での茶道体験をする。

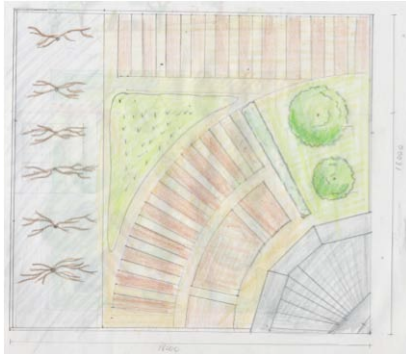
c, 提案2 空き地の庭園化計画



寺内町の景観にそぐわないレンガの壁を隠しながら地域の人が休みに来る様な庭

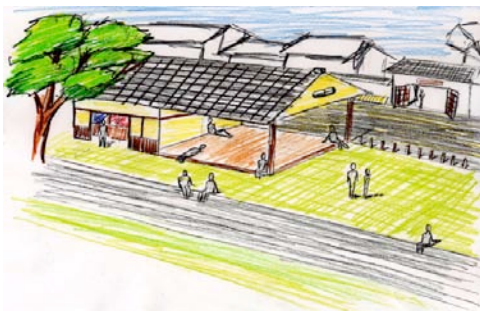
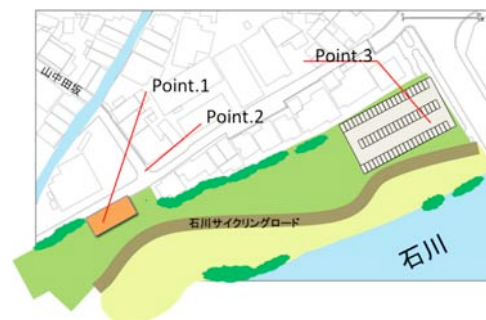
園を作る。

d, 提案3 クラインガルテンの提案



寺内町に点在する空地、駐車場を利用して気軽に菜園、収穫体験などができるスペースを作る。また、一カ所を本拠地にし道具の貸し出し、着替えをする施設を作りそこから各所に行く。

③石川と寺内町を関連付けるために、石川サイクリングロード沿いに駐車場や休憩所を設けることで車でのアクセスを容易にし、寺内町へ繋げる新たな入り口とする。



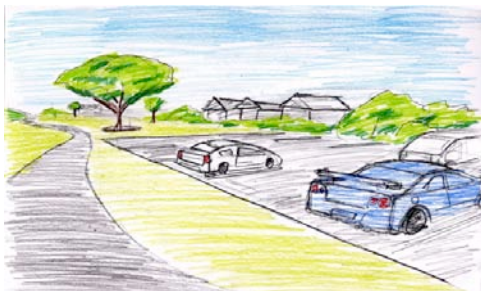
a, Point 1. 休憩所の新設

石川の河岸にサイクリングロード利用者のために休憩所を作り、休憩所で寺内町の情報を掲示し寺内町をPRする。



b, Point 2. 門の設置

寺内町へのアプローチとして山中田坂を景観整備し、かつて存在した門を復活させることで寺内町の景観を取り戻すとともに、寺内町の入口を明確にし、寺内町への魅力的なアプローチを演出する。



c, Point 3. 駐車場の設置

河川敷に駐車場をつくり寺内町へのアクセスを容易にする。



d, 石川を望む駐車場の空間を利用して、軽食を楽しむことができる店舗と、山並みの景色を眺める休憩所をつくり、イベントなど人びとが集まることのできる寺内町における新たな展望広場として活用する。

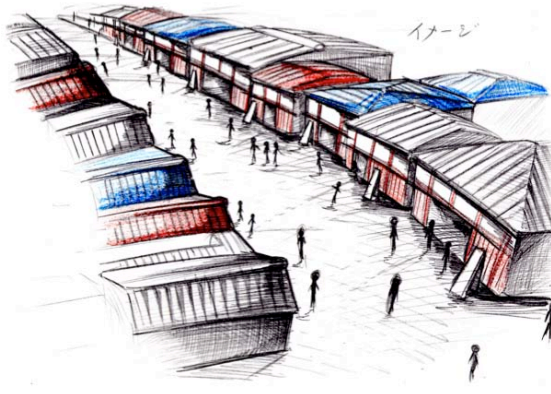


④すべての電柱が地中化されているわけではないので、電柱の地中化と景観を阻害するアンテナなどのカモフラージュを行う。



a, 昔ながらの街並み残る寺内町の道に「すだれ」の屋根を設置する。

富田林の特産品である「すだれ」を用いて、寺内町の景観をより魅力的なものとする。国内はもちろん海外の観光客の皆さんにも興味を持ってもらうため、フランスの芸術家・クリストの覆う芸術を参考にした。さらに道を覆うことで夏は影が生まれ熱中症対策に、そして、夜はその屋根に提灯を吊るし、灯籠を置くなどして明かりを灯すことでイルミネーションとしても楽しめる。



⑤空き家の活用として、すでに店を開いているところもあるが、ガレージセールの開催も含め、より多くの店を開くことで賑やかにする。積極的に利用していくためには公的な助成金制度の充実が求められる。すでに開いている店の営業日・時間の延長も期待できる。

⑥観光資源を活かしたここにしかない祭り、スケッチ大会、写真大会といったイベントを月1回や年1回でも開催することにより、より多くの人びとにここでしか味わえない雰囲気味わってもらう。

⑦新堂廃寺跡モデルタウン計画：歴史を語り未来をつくる

新堂廃寺跡を、観光客を呼び込むことができる場所とするための提案。

当時ここに建てられていたとされる新堂廃寺のすがたを再現する。建物を再現するだけでなく新しい要素も取り入れる。



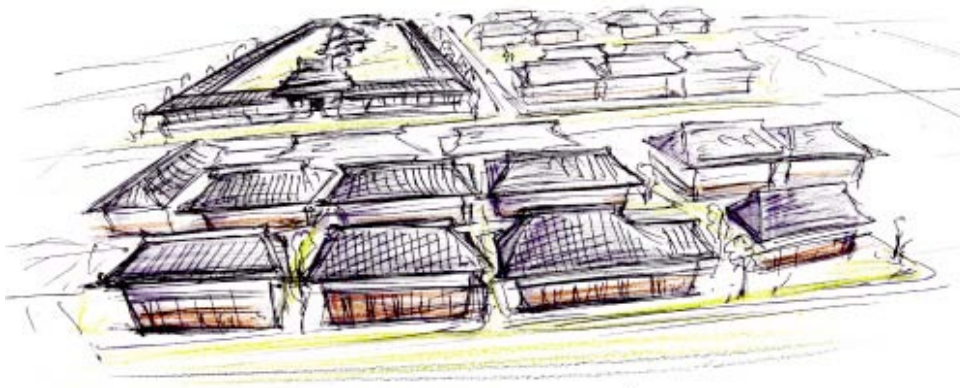
a, 提案1 新しい要素：庭園

当時にあったとされる回廊を回りながら新堂廃寺内に造られたすべての庭園を眺めることができる。そうすることで観光地としての役割を果たすことにも繋がる。



b, 提案2 モデルタウン化

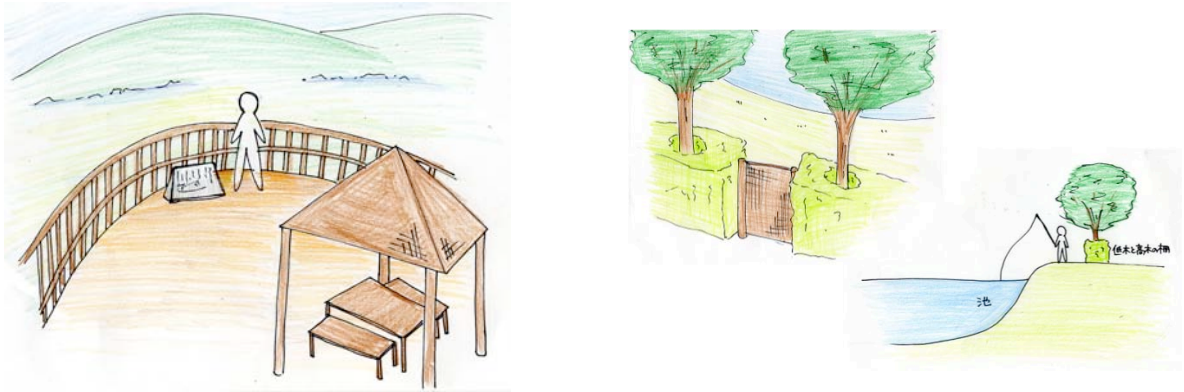
新堂廃寺周辺の土地を近い将来、町並みのあるべき姿を示すためのモデルタウンとする。モデル住宅は、歴史的町並みや建造物からあるアイデンティティを取り入れ、将来富田林の一般住宅として広めていく事ができる実用性を備えたものとする。モデルタウン自体が観光地となり、この町に移り住む人が増えることにより、景観改善と地域活性化につながる。



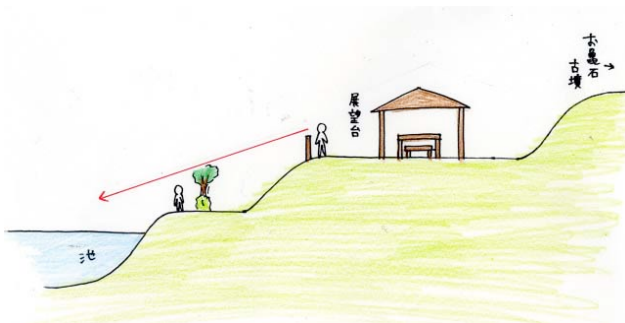
⑧お亀石古墳周辺の公園化計画

7 世紀前半頃に築造されたと推定されてい

るお亀石古墳は、2002年12月19日に、周辺の新堂廃寺、オガンジ池瓦窯跡とともに国の史跡に指定された。羽曳野丘陵から南東に突出した尾根上、標高約98メートルの位置に築かれている1辺21メートルの方墳である。御観寺池の中には、オガンジ池瓦窯跡がある。この古墳の被葬者は、南東に位置する新堂廃寺と密接な関係にあると考えられる。



小高い丘の上に位置するお亀石古墳と、池の中にあるオガンジ池瓦窯跡を一体として公園化し、憩いの場として整備する。里山景観に馴染むように池の周りの柵を灌木でデザインし、池と古墳の間の斜面には休憩所付きの展望台を設置し、窯跡の説明板を置く。



⑨以上の他にも東高野街道沿道には、錦織公園、新堂集落、美具久留魂神社、一里塚などの歴史遺産が点在し、街道の東側に平行して石川が流れている。徒歩、自転車、電気自動車、電車といった多様な交通手段を用いて、寺内町を拠点としたこれら2本の軸線を観光ルートと位置づけることにより、富田林市のエコツーリズム計画を推進することが重要である。